

新型コロナウイルスとの終わりの見えない闘いの日々、そして九州・中部地方をはじめとした集中豪雨災害など、わたしたちを取り巻く環境が何かと大変な今、皆さまはどのように過ごしていらっしゃいますか。長～い梅雨で体調など崩されてはいらっしゃいませんか？

いろいろな意味で、いつもの夏とはまったく違う「今年の夏」。

「3とる」(①人との距離をとる、②適度にマスクをとる、③水分をとる)を意識しながら、夏バテをしないように、この夏を上手に乗り切っていきましょう！



ご利用ください

「ふくしまと繋がる・福島とつなげるプロジェクト」 (通称：ふくつなプロジェクト)

一社) 埼玉労福協が福島県の「福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金」を活用し、実施している事業で、福島県から埼玉県内に避難されている皆さんを支援する事業です。

◆どんなことをしているの？

事業1：要支援者（お困りごとのある方／健康に不安のある方）の見守り・支援

事業2：交流会の実施 → 現在、実施を見合わせ中

事業3：帰還支援サポート

ぜひ、お気軽に
ご利用ください♪



事業1 要支援者への対応

埼玉県内の避難者支援組織、サロン・交流会を訪問して「要支援者」を把握し、定期的に戸別訪問を行います。尚、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流会等の実施予定がありません。その為、昨年度より引き続き把握している要支援者宅を訪問しています。

必要により、食糧支援や看護師資格をもつ避難者も同行し、訪問を行います。

お困りごとのある方、健康に不安のある方、スタッフまでお気軽にご相談ください。

事業3 帰還支援サポート

「福島の家にか財を取りに行きたい」、「お墓参りをしたい」、「福島の市役所・役場に用事がある」、「自宅の解体作業の立ち合いのために一時帰還をしたい」など、ちょっと帰りたけれど一人では不安、電車に乗って行くのが大変…など一時帰還に不安を抱えている方へ『運転・同行のサポート』を行います。

具体的には、避難先の家から避難元まで日帰り、または一泊で往復の送迎を行います。支援事業なので交通費はかかりません。(宿泊費・移動時の飲食代等は別)ぜひご利用ください!!

帰還に向けた諸問題の解決を図るために、生活相談・住宅相談など社会保障に関する相談事もお聞きします。少しでもお悩みの事がございましたら、一人で抱え込まずにお電話ください。

☎090-9425-2001 (スタッフ：石上)

☎090-3240-9185 (労福協：永田)

事業報告①

川越市在住のN様より「自宅の解体が完了したので環境省との立会確認に同行して欲しい」との依頼を受け、6月29日～30日の2日間、2020年度一時帰還同行支援A班として大熊町に行ってきました。

29日8時30分にN様宅を出発。大熊町の現地に14時30分に到着し、環境省担当者と解体業者による解体確認、署名を行いました。家を解体・除染し、更地になった土地には、新たな盛り土が行われていました。

2日目の30日は、浪江町役場を訪問。以前、浪江町復興支援員をしていたO氏に、今年の十日市祭の開催について状況を確認しました。開催については、新型コロナウイルスの問題があり、開催の決定は9月頃になるだろうとのことでした。

その後、浪江町の請戸漁港に行き、復興状況を視察しました。震災前の状況を知っているN様は街並みの変貌ぶりに驚いていました。「見ることができてよかった」とのことでした。(S)



2/17 解体の様子



6/29 解体完了確認

事業報告②

6月29日～30日、2020年度一時帰還同行支援B班として福島県浪江町に行ってきました。

浪江町から上尾市に避難している橘さんは、両親と暮らしていた実家と震災まで自身が生活していた「自宅」が浪江町にあります。そのため、一昨年は自宅の清掃、昨年は解体のための打合せ、立ち会い等で一時帰還支援を利用して浪江町に戻りました。



今回は、長年かかって収集した陶器類を上尾のシラコバト団地に移送するためのものでした。

6月29日午前9時に上尾シラコバト団地を出発し、A班との合流打合せのためJビレッジに向かいました。

その後、国道6号線を北上して浪江町に向かい、夜は現地の方と交流をされたようです。

そして、30日に今回の主目的である「家財（皿や鉢なども含めた）」を車に積み込み、埼玉県上尾市への帰路となりました。

橘さんは、「一時帰還への同行支援でとても助かった。他の人にも利用を呼び掛けたい」との感想をいただきました。
(永田信雄)

イベント報告

渡辺ブルーベリー園で交流会を開催しました



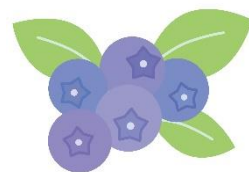
7月4日（土）、大熊町から避難している渡辺さんが宮代町で開園している渡辺ブルーベリー園で「ブルーベリー狩り交流会」を開催し、双葉町・浪江町・富岡町・いわき市からの県外避難者23人（大人19人、子ども4人）＋スタッフ4人が参加しました。渡辺ブルーベリー園には、様々な種類のブルーベリーが約700本栽培されており、熟した実がたわわに実っています。

当日は、朝まであいにくの空模様でしたが、ブルーベリー狩りの時にはすっかり雨も上がり参加者の皆さんは様々な種類のブルーベリーを食べ比べながら、楽しく交流をしていました。

※今年の摘み取りは8月中旬頃まで可能です。お出かけになる際は、事前にブルーベリーの生育状況を下記までお問い合わせください。

○渡辺ブルーベリー園 住所：宮代町金原 295

Tel: 090-6685-6436（渡辺芳美さん）



戸別訪問報告

7月某日 Iさん（男性）訪問記録

浪江町から川口市に避難生活。単身、67歳。部屋は掃除されていて、台所には電子レンジと小さめの鍋がガス台にありました。自炊はしていないようで、近くのコンビニに行っているとのこと。4月から家賃が発生し、家賃は5万円。駐車料金は5千円。滞納はありません。糖尿病の治療として、一日4回、インスリンを自己注射しています。

保険証を確認したところ、在職中の健康保険組合に「特例退職被保険者」として加入していました。74歳まで被保険者として加入できますが、保険料負担は全額自己負担（28万円／年）で、治療費の3割を自己負担しています。

国民健康保険であれば医療費一部負担金が免除となるのですが、本人は「手続きが面倒なのでこのままでいい」とのこと。とはいえ、手続き等について改めて調査し、再度訪問することにしました。



今後も、単身者・高齢者世帯を中心に、コロナ禍の様子を見ながら、戸別訪問を行っていきたく考えています。



ふくつなプロジェクトは 「避難先住民との農園交流」を推進します！

①あゆみの会農園（越谷市）



越谷市に避難している人のサロン、「あゆみの会」が越谷市花田自治会の協力を得て農園活動をしているのが『あゆみの会農園（石上代表）』です。

土作りから種まき、草取り～水やりをあゆみの会の会員が行っています。

畑からとれた新鮮野菜を使って、「ジャガイモ掘り」や「サツマイモ掘り&さんまバーベキュー」などのイベントを行っています。

②新元気農園（加須市）

埼玉県加須市に避難した双葉町民を中心に『新元気農園（藤田代表）』の活動を行っています。

加須市の農家から借り受けた畑を利用して野菜作りをしています。

活動には20名程度の会員が参加していますが、毎年12月には“収穫祭”を開催して交流をしています。



③ひまわり池田農園（上尾市）



上尾シラコバト団地の避難者でつくる「東日本大震災に咲く会ひまわり」の会員である池田さん（双葉町）が上尾市菅谷の畑を使って野菜作りをしています。

できた野菜は毎月1回開催されるサロンで配布されます。



※「農園交流」活動に参加してみたい！という方は、下記↓までご連絡ください。

このプロジェクトに関する問い合わせ＆お申込み

☎ 090-9425-2001 （スタッフ：石上）

☎ 090-3240-9185 （労福協：永田）

受託団体：一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 （☎ 048-833-8731）